



Title	ケアの科学と価値 : 応用科学哲学による看護学の再編と価値中立化を図る思考法の検討 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	新納, 美美
Citation	北海道大学. 博士(理学) 甲第12493号
Issue Date	2016-12-26
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/64431
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Mimi_Nihiro_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博士（理 学） 氏 名 新 納 美 美

審査担当者 主 査 教 授 松 王 政 浩
副 査 教 授 鈴 木 誠
副 査 教 授 佐 伯 和 子（保健科学院）
副 査 准教授 三 上 直 之

学 位 論 文 題 名

ケアの科学と価値
－ 応用科学哲学における看護学の再編と価値中立化を測る思考法の検討

博士學位論文審査等の結果について（報告）

本論文は、一科学分野としての看護学の現状を外部の視点でできる限り客観的に捉え直し、他の学問分野の考え方を有効に用いることによって、看護学が現在抱えている大きなアノマリー（反社会的行動特性を持つ対象者に対するケアが従来の看護理論では取り扱えないこと）に対し、その解決のための具体的方策を得ようとするものである。

本論文の特色は大きく二つある。まず一つの特色は、科学哲学における価値論等の助けを借りながら、看護学の理論形成の歴史を独自の視点で捉え直した点にある。ナイチンゲール以来、今日に至るまで看護学は多岐にわたるかなり複雑な理論形成過程を経てきた。看護学の本質を探る上でもその形成の歴史を把握することは重要だと考えられるが、看護学内部ではこれまでそうした研究は十分行われていない。本論文は、理論形成過程をアノマリー形成過程と読み替え、現在の看護学理を「ケア」という明確な価値概念に支えられるものだとし、現在に至る歴史を価値形成の歴史と捉えることで（つまり、アノマリーはこの価値による制約の結果である）、単なる通史に留まらない看護の「歴史観」を提示した。これは看護学にとってのみならず、科学史のケーススタディとしても非常に意義のある試みである。

第二の特色は、具体的なアノマリー解決に当たって、真に応用哲学（倫理）的な手法を用いた点にある。本論文では、アノマリー解決には、ケース毎の適切な価値選択を可能にするような倫理理論が必要だとするが、こうした理論は従来の看護倫理にはないとして、その手掛かりを道徳科学哲学者 R.M. ヘアの選好功利主義理論に求める。そしてヘアの理論が規範の学習や創発にもつながる点を巧みに捉えてこの理論を従来の看護実践に埋め込み、それによってアノマリー解決の見通しが得られることを具体的な事例研究の中で示した。応用倫理研究と名の付く研究は多いが、真に実践的な科学問題の解決につながる応用的な研究はほとんどない。そうした中で本論文は真に応用哲学的な研究として希有な研究であり、また現実になかなか実現しない異分野の融合を非常に高いレベルで実現した研究である。

以上二点から、本論文は科学コミュニケーション（科学基礎論）分野の博士研究として申し分なく、著者は、北海道大学博士（理学）の学位を授与される資格があるものと認める。